
それは食べることが出来ます

junq

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それは食べることが出来ます

【Nコード】

N0131S

【作者名】

junq

【あらすじ】

神様と出会って、戦闘能力皆無……だったはずの能力を授かって、その世界に降り立った主人公。
同時に神様によって上げられた身体能力で、戦争に乗り込む！

(前書き)

ぶっちやけ、魔法世界編のコミックスはあんまり持っていないので、詳しい描写が出来ません。今度買ってきますかね。

目の前の荒野には、幾千幾万の兵士が集っている。
その後方には、魔法に依って浮く戦艦。
まさしくここは戦場であり、まさしくここは、これまで俺が生きていた世界とは異なっていた。

「……神様って奴はすげえな。魔法なんてオカルトまで形にするなんて」

神様自体がオカルトだが、という言葉は飲み込む。
目の前に居たものを“オカルト”呼ばわりするのは、気が引けた。

「さて、折角だし、頂いた能力とやらを使ってみるか」

そう呟いた一瞬後には、俺の手には既にソレが握られていた。

それは、あまりにも大きすぎた。

それは、パンと呼ぶには余りに大きすぎ、鋭すぎた。

それはもはや、食用剣とも呼ぶべきものだった。

「うん。出来るな。じゃあ、行きますか」

俺は、神様によって凶化……もとい強化された身体能力で、戦場に駆けていった。

その手に100メートル程の剣を持って。

青山詠春が、怒りを抱いている。

それも、義憤だとかではなく、個人的な怒りを。

赤い翼の面々にとっては、それはとても珍しいことだった。日本人らしく、普段から強い主張をしてこなかった詠春が。まさか、個人的にたった一人の男に、怒りをぶつけるなんて。

4

「貴様……普通の剣を使え！ よりにもよって、パンだと！ ふざけるなあ！」

「えー、俺はこれしか出せないんだが……」

その男は、桜拓馬と名乗った。

名前からすると、日本人なのであるうが、詠春とは反りが合わないよう……

「貴様の何が気に入らんかと言えば、そんなふざけた剣で、俺と対

等に切りあえる所だな！」

「いや、身体能力に任せた剣術だから、褒められてもな……」

まあ、確かに、赤い翼の面々として拓馬には一言申したい。

何でパンで、刀と打ち合えるのか、と。

確かに。確かに、それはパンというよりは、剣と呼ぶべき形をしていたが、パンであることに変わりなし。

そんなパンが、刀と打ち合って金属音を響かせていたら、誰でも驚愕する。

「知ってるか？ 北国には、人を撲殺出来るほどの堅さのパンが、実在するらしいぞ？」

「まさか、それがそうだとでも？」

「いやいや。これは俺の能力『フィドオプユートピア夢の食べ物』によるものだ」

その言葉に、詠瞬は切りかかるのを止めた。

そして、正眼に構えた刀の切っ先で、拓馬に続きを促す。

「この能力というのは、俺が想像した食べものを具現化するものだ。俺が想像仕切ることさえ出来れば、どんなものでも、な」

この時、赤い翼に衝撃奔る　！
ナギ・スプリングフィールドが、拓馬に向かって走り出したのだ。

「その身体能力といい、お前強いな！　仲間になんねえか？」

「女の子が居ないのがいささか残念だが……良いぜ。俺を仲間に入れてくれ」

そうして彼は、この後も戦い続け、幾つもの二つ名を付けられることになる。

『キャニートブレイド
食用大剣』
『リターンイーター
食の逆転』

『パンしか無ければパンで戦えば良い』

『食べ物で粗末にするんじゃないやありません！』

『パンに雷の暴風切り裂かれたんですけど』

なんかこう、他の面子と比べるとネタ的な物が多かったのは、ご愛嬌である。

そして彼らは、ラストダンジョ……墓守り人の宮殿に辿りついた。

「やあ、千の呪文の男。それに、忌々しい食用大剣……パンで替えの体を切られた時は、腸が煮えくり返ったよ……」

「パンに斬られるほど柔いのが悪い」

「君にとってはそうなのだろうね。だから、僕も容赦しない」

そして、ラスボ……造物主と出会う。

「食用大剣……この世界の法則を知った者よ」

「え？ 法則？ え、何？」

「食べ物で攻撃するという行為は、いかにも旧世界人が思うところの“魔法的”」

「いや、だから、法則って……？」

「魔法的なものが強化される魔法世界においては……」

「おい、ナギ。もういいから、撃て」

「千の雷！」

「……とまあ、こんな感じだな、拓馬の奴との関係は」

「はあ、そうなんですか……」

「いやいやいやいや、二つ名にまともなの少なすぎだろ！ 『食べ物
を粗末にするんじゃないやありません！』 ってもはや名前以前の問題だ
し！」

「それを言えば、ラカンさんの『剣が刺さんねーんだけど』でした
か？ あれとどっこいでしょ」

「赤い翼としては、パンで魔法を切り裂かれることにびっくりして
たがな」

「あのにーちゃん、大戦の時からあんなにかいな……」

(後書き)

撲殺出来るほどの堅いパンについては、喰いタンより、
ドラマの方より、漫画の方が好きです。

キャニートブレイドのスペルは

C a n e a t b l a d e
です。

何の捻りもありません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0131s/>

それは食べることが出来ます

2011年10月5日17時47分発行